

目次

第1章 事業の概要.....	1
1-1 事業名.....	1
1-2 事業の概要.....	1
1-3 学習ターゲットと目指すべき成果.....	1
1-4 今年度の主な取り組み.....	1
1-5 事業の実施期間.....	2
1-6 事業の実施体制.....	2
第2章 高等専修学校と外部とのネットワーク化の推進.....	5
2-1 多様性が生み出す未来の社会を見据えて.....	5
2-2 多様な個性で輝く生徒達の職業的・経済的自立をサポートするためにできること.....	5
2-3 地域連携について地元の現状・課題.....	6
2-4 連携委員会等実施履歴.....	7
第3章 高等専修学校の認知度に関するアンケート調査.....	8
3-1 全国的にも実施が進む高等専修学校認知度アンケート.....	8
3-2 アンケート調査結果.....	8
3-3 アンケート調査結果.....	13
第4章 職業実践モデル『はたらこう検定（仮）』の開発.....	14
4-1 今年度開発の各職業コンテンツについて.....	14
4-2 新しい就業支援ツール用開発教材の内容について.....	15
4-3 開発コンテンツを用いた実証講座について.....	22
4-4 職業実践モデルの今後.....	27
第5章 次年度以降の取り組みについて.....	29

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、学校法人大岡学園 大岡学園高等専修学校が実施した令和3年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

第1章 事業の概要

1-1 事業名

令和3年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

学びのセーフティネット機能の充実強化（高等専修学校と外部とのネットワーク化の推進）

『地方都市における地域ネットワークを活用した高等専修学校版職業実践モデルの構築』

1-2 事業の概要

「進路先のひとつとして積極的に選ばれる高等専修学校へ」

多様な個性を持った生徒達が、自分らしさを発揮しながら『職業的・経済的自立』を目指して学ぶ場である高等専修学校は、まさにダイバーシティの実現を担う人材を養成する重要な教育機関である。

本事業では、高等専修学校において職業観を育む学びの中から、生徒各自が興味を持ったテーマに関して、実際の仕事とリンクする様々なコンテンツを提供し、各生徒の特性に合った職業で将来的に未永く生業に就くことができる力を持った人材の養成（在学中の支援）と、卒業後に生業に就き続けるために必要な支援のあり方（卒業後の支援）について、生徒を中心として家庭・保護者及び地域社会と連携した独自のネットワークシステムを活用した、新しい職業教育モデルを構築することを目的とする。

1-3 学習ターゲットと目指すべき成果

【学習ターゲット】

地方都市で学ぶ高等専修学校生全般

【目指すべき成果】

- ・STEAM 教育のノウハウを取り入れた、楽しみながら働くことへの基本姿勢が学べる新しい就業支援ツールの開発と利用により、責任を持って仕事に取り組むことができる人材の養成。
- ・基本的な生活習慣と職業教育に必要な基本的スキル（ビジネスマナーやコミュニケーションスキル等）を身に付け、情報活用能力や各分野に必要な専門技術を持った人材を養成し、安定的な職業生活を送ることができる地域連携の仕組み作りとそのノウハウの普及。

1-4 今年度の主な取り組み

①高等専修学校と外部とのネットワーク化の推進

- ・共通理解を推進するための実施委員会及び分科会を実施（期間中3回実施）。

②高等専修学校の認知度に関するアンケート調査

- ・豊岡市内の中学校教員を対象として実施。

③職業実践モデル『はたらこう検定（仮）』（令和3年度版）の開発

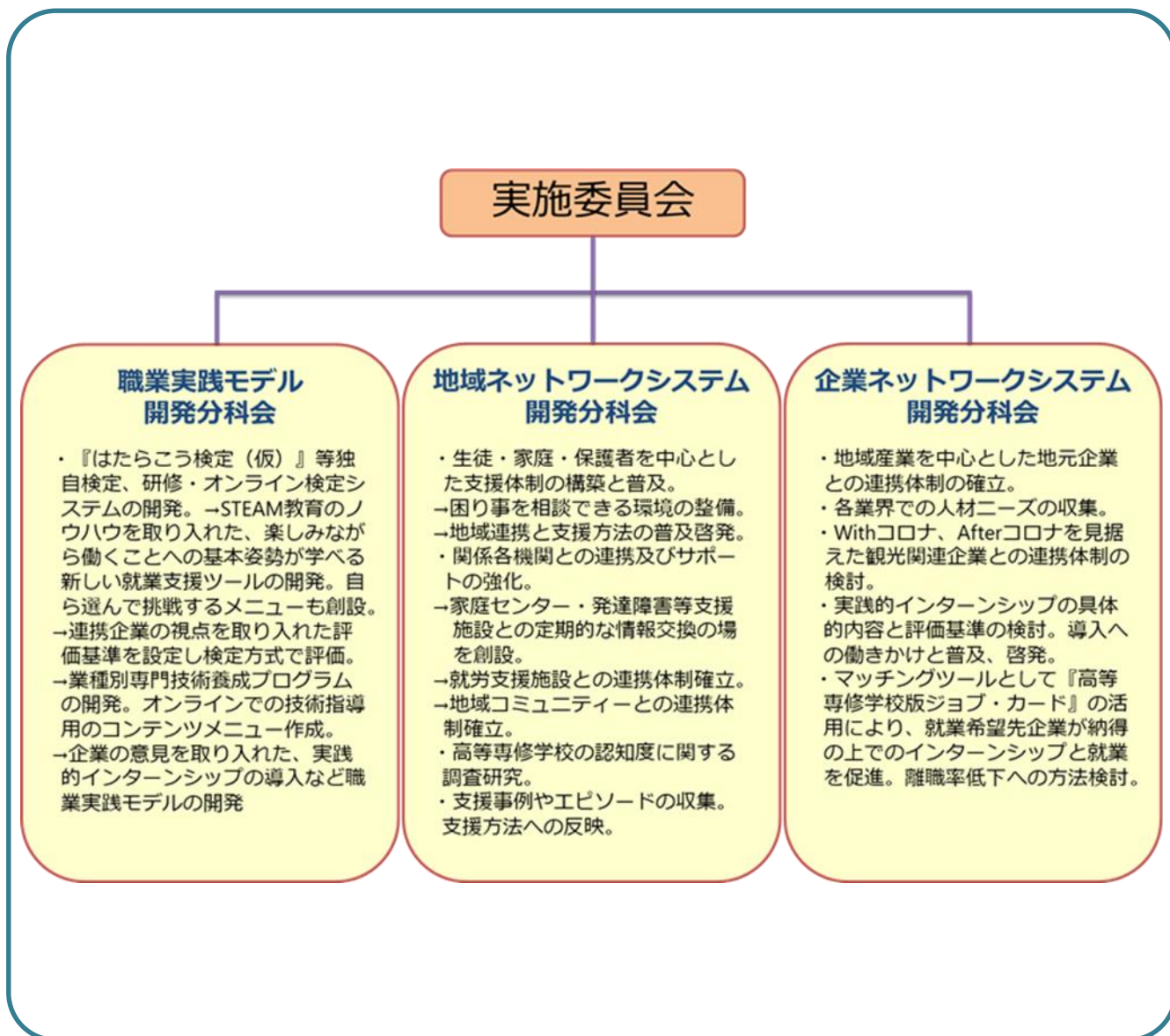
- ・農業と製造業に関する職業コンテンツの一部を開発。
- ・開発コンテンツを用いた実証講座を2回実施（11月～12月）

1-5 事業の実施期間

令和3年10月5日 ~ 令和4年3月15日

1-6 事業の実施体制

実施委員会、地域ネットワークシステム開発分科会、企業ネットワークシステム開発分科会、職業実践モデル開発分科会の4部門で構成される。



(1) 実施委員会

- ・各連携組織との意思統一。構築していくシステムの統一的理解の増進。
- ・地域ネットワークシステム構築のためのノウハウを検討し、まとめる。
- ・地域連携により期待される生徒のスキルアップ項目の内容をまとめる。

名称		役割等
1	大岡学園高等専修学校	総括
2	高等専修学校神戸セミナー	地域 NS 開発
3	猪名川甲英高等学院	地域 NS 開発
4	豊岡市中学校校長会	地域 NS 開発
5	豊岡市立豊岡北中学校	地域 NS 開発
6	北近畿地産の会	企業 NS 開発 職業モデル開発
7	城崎温泉旅館協同組合	企業 NS 開発 職業モデル開発
8	豊岡商工会議所	企業 NS 開発 職業モデル開発
9	豊岡市社会福祉協議会 障害者基幹相談支援センター	地域 NS 開発 企業 NS 開発 職業モデル開発
10	正法寺地区自治会	地域 NS 開発
11	豊岡市教育委員会 こども教育課	地域 NS 開発

(2) 地域ネットワークシステム開発分科会

- ①生徒・家庭・保護者を中心とした支援プログラムの構築と普及
- ②関係各機関との連携及びサポートの強化。
- ③高等専修学校の認知度に関する調査研究。
- ④支援事例やエピソードの収集。支援方法への反映。

名称		役割等
1	大岡学園高等専修学校	総括
2	高等専修学校神戸セミナー	実施
3	猪名川甲英高等学院	実施
4	豊岡市中学校校長会	実施
5	豊岡市立豊岡北中学校	実施
6	豊岡市立豊岡南中学校	-
7	豊岡市立日高東中学校	-
8	豊岡市教育委員会 こども教育課	実施
9	豊岡市社会福祉協議会 障害者基幹相談支援センター	実施 企業 NS 開発 職業モデル開発
10	ひきこもり等支援プロジェクトドーナツの会	-
11	ひょうご発達障害支援センター	-
12	正法寺地区自治会	実施

(3) 企業ネットワークシステム開発分科会

- ①地域産業を中心とした地元企業との連携体制の確立。
- ②各業界での人材ニーズの収集。
- ③マッチングツールとして『高等専修学校版ジョブ・カード』の活用により、生徒の就業希望先企業が納得の上でのインターンシップと就業を促進。離職率低下への方法検討。

名称		役割等
1	大岡学園高等専修学校	総括
2	北近畿地産の会	実施
3	城崎温泉旅館協同組合	実施
4	株式会社 at きなし	職業モデル開発
5	株式会社たじまにあ	職業モデル開発
6	株式会社中村建設ナカフサ	職業モデル開発
7	豊岡商工会議所	実施 職業モデル開発
8	豊岡市商工会	職業モデル開発
9	豊岡市社会福祉協議会 障害者基幹相談支援センター	実施 地域 NS 開発 職業モデル開発
10	豊岡観光イノベーション	職業モデル開発
11	但馬信用金庫大開支店	-

(4) 職業実践モデル開発分科会

- ①職業教育を切り口とし、STEAM 教育のノウハウを取り入れた、楽しみながら働くことへの基本姿勢が学べる新しい就業支援ツールの開発。

名称		役割等
1	大岡学園高等専修学校	総括
2	北近畿地産の会	実施 企業 NS 開発
3	城崎温泉旅館協同組合	実施 企業 NS 開発
4	豊岡商工会議所	実施 企業 NS 開発
5	豊岡市商工会	企業 NS 開発
6	豊岡市社会福祉協議会 障害者基幹相談支援センター	実施
7	株式会社 at きなし	企業 NS 開発
8	株式会社たじまにあ	企業 NS 開発
9	豊岡観光イノベーション	企業 NS 開発
10	株式会社中村建設ナカフサ	企業 NS 開発

第2章 高等専修学校と外部とのネットワーク化の推進

2-1 多様性が生み出す未来の社会を見据えて

本校では、令和3年度在学生徒の内、障害者福祉関係手帳所持者が19.6%、発達障害や学習障害の生徒の割合が31.4%、サポートファイル^{※1}所持者の割合が29.4%と、全体の56.7%の生徒が何らかの身体的精神的課題を抱いて、日々の学校生活に励んでいます。多様な生徒がそれぞれの個性を発揮しながら学ぶ様子を目の当たりにしたとき、生徒が将来生活していく社会には『ダイバーシティ&インクルージョン(以下 D&I)』というキーワードが重要であると考えます。

本校が位置する兵庫県豊岡市では、地方都市が抱える大きな問題の一つである人口減少への向き合い方として、市の基本構想において、目指すまちの将来像を「小さな世界都市-Local&Global City-」と定めています。この実現のために「多様性を受け入れ、支え合うリベラルな気風が満ちているまち」を目指し、「女性、高齢者、障害者や外国人等の多様な人々が、地域社会や地域経済の担い手として期待され、現に活躍するまちづくり」^{※2}を推進することを掲げています。その取り組みの一環として、2021年度からの10年間を計画期間とする、全国的にも先進的な『ジェンダーギャップ解消戦略』^{※3}を策定しました。

このように地方行政でも社会の中での多様性を認め合い、様々な人材を活用してこれからの地域を活性化していこうという気運の高まりのあるこのタイミングに、高等専修学校での多様な学びの形を作り出す特色ある職業実践モデルを、地域との連携しながら開発することは、大変意義深いことであると確信しています。

※1：「障害や特性があり継続した支援を必要とする方に、継続的な支援を行うために、保護者と支援機関、支援機関と支援機関の連携の手段として活用する」(豊岡市 HP より)ことを目的に、豊岡市が対象者に対して作成支援を行う情報共有ツール。

※2：豊岡市 HP より。

※3：豊岡市の HP によると、戦略の目指す姿を「固定的な性別役割分担を前提とした仕組みや慣習が見直され、お互いを尊重し支え合いながら、いきいきと暮らしている」と定め、職場、家庭、地域、学校等を含めたまち全体のジェンダーギャップ(社会的・文化的に作られた男女格差)の解消に向けた取り組みを進める、とある。

2-2 多様な個性で輝く生徒達の職業的・経済的自立をサポートするためにできること

従来の学校は、学力というただ一つの基準で生徒の能力を判断し、選別することとなります。しかし多様な個性を持った生徒が増える中で、従来の画一的な教育プログラムで学ばせることは難しく、今後多様な学びの形を作り出すことが重要となってくると考えます。

そこで、多様な基準を導入し、異なる能力や特性の生徒を受け入れ、職業教育を軸として職業的・経済的自立をサポートしていくことは重要であり、特に本校では『D&I』が最重要なアジェンダであると考えています。また、生徒の生活の基盤となる家庭に関して現状をみると、経済的な面での不安はもちろん、保護者自身に支援を必要とする家庭も増加傾向にあり、専門機関との連携による継続的なフォローアップも重要となっています。本人はもちろん、家庭・保護者も含めて、安心して一緒に子供の将来に向かって取り組める環境の整備も、重要項目の一つであると考えます。

GIGAスクール構想によるオンライン授業の導入は、多様性のある生徒たちにとって在宅学習(家庭学習)と対面学習を選択できるようになり、今後はその内容の充実が次のステップとなりま

す。「働く」ということを切り口に、様々なコンテンツを用意し、どこからでもアクセスできる、どこからでも自分自身を発信できる学びの環境整備こそ、高等専修学校が担う新しい役割であると考えます。

これまで構築してきた地域連携システムをスキームアップし、各生徒が自身の個性を生かした職種に就き、定着できる仕組みづくりを進めます。

2-3 地域連携について地元の現状・課題

①就職に関する現状と支援及び卒業生へのアフターフォローについて

- ・高卒求人における指定校推薦枠の少なさ。
- ・企業側による高等専修学校の認知度の低さ。
→企業連携体制の確立が重要に。地元企業の力を借りながら、地元の人材を共に育てていく姿勢を理解してもらう。
- ・法定雇用率を満たす企業の少なさ。(管内で約 140 社程度)
- ・卒業生へのアフターフォロー、卒業生追跡調査の実施
→定期的な情報交換の場の創設など、就職先企業との連携強化が必要に。

②生徒・家庭・保護者への支援について

- ・支援家庭の増加。片親家庭との連携【例】令和3年度入学生の片親の割合→25% (16名中4名)
→連絡が取りにくい家庭との連携は親だけでなく、祖父母等の親族との連携も必要に。
- ・子育ての悩みや就職・進学等についての『困りごと』を、学年を問わず早い段階で相談できる身近な場の情報が不足。
→相談の場、交流の場の創設。必要に応じて定期的訪問などの対策も視野に。

③地域コミュニティの現状

- ・高齢化により、コミュニティごとに実施していた清掃活動ができなくなっている。
→地域コミュニティと連携し、生徒のボランティア活動の場として活用。
→コミュニティの会議に参加。地域での生徒の活躍の場を広げるとともに、高等専修学校の取り組みを知る機会をつくる。
- ・『豊岡市ジェンダーギャップ解消戦略』の策定(2021年3月)による地域におけるダイバーシティの進展。
- ・兵庫県で初の県立専門職大学(芸術文化観光専門職大学)の開校(2021年4月)による、新しい文化的刺激にふれあう機会の増大。
→行政や新しい大学との連携で、多様な個性を持つ生徒の活躍の場がさらに拡大できる好環境に。

④発達障害や不登校等、特別な支援が必要な生徒に対する支援について

- ・学校の規模等が要因で専門職員の雇入れが難しく、生徒に合った相談窓口や福祉サービスの判定が難しい。
→教育委員会やこども家庭センター、相談支援施設などとの継続的で確実な連携が必要不可欠な状況。
- ・福祉サービスを必要とする生徒の場合、教職員が開拓する必要があるが、職員数が少なく限られている現状では渉外に出ることが難しい。
→関係各機関からの情報を、継続的により効率よく確実に収集できる連携システムの構築が不可欠。教員の負担軽減にもつながる。
- ・公的な支援機関等は、支援生徒の担当者が変わると振出しに戻り、担当者との関係を再び築き上

げていかななくてはならないというケースが多く、連携がスムーズにいかなくなることもある。

【課題①】前担当者とこれまで築き上げてきた連携が途絶える。

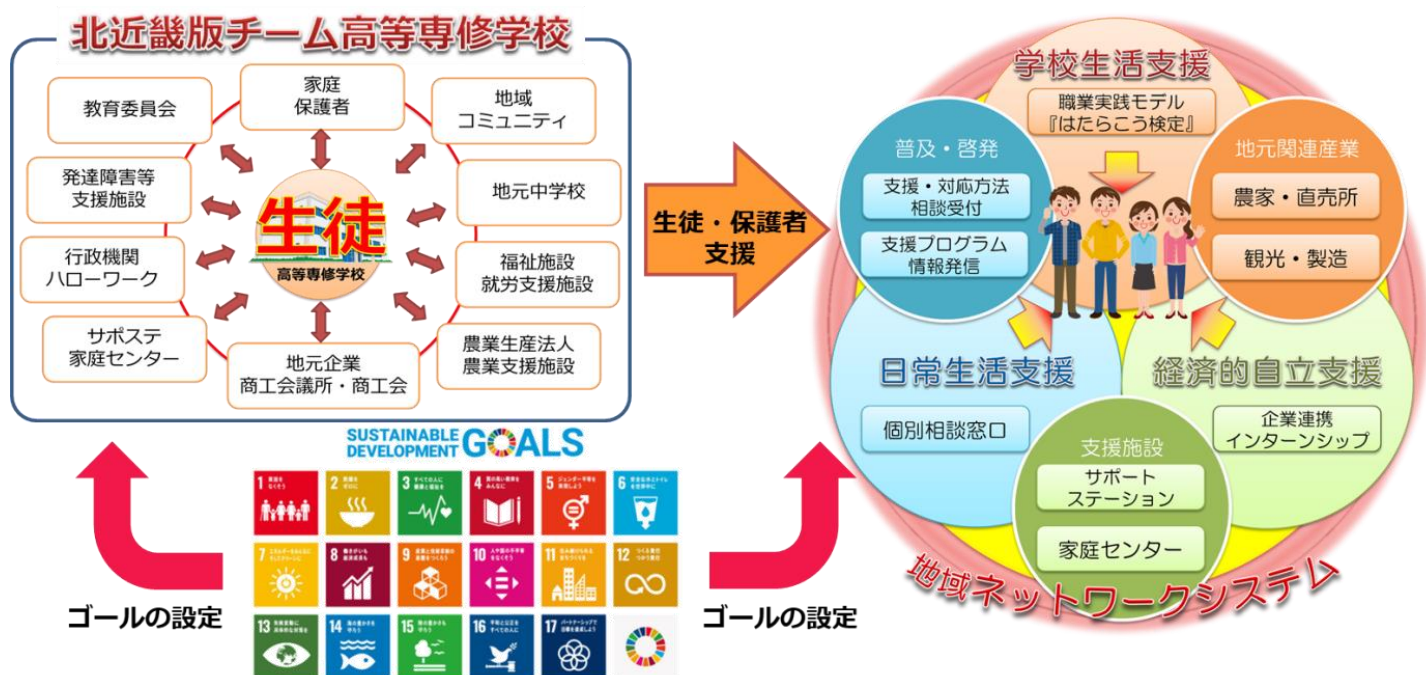
【課題②】個人情報公開について、その重要性は重々承知であるが、担当者が変わることで振出しに戻り、情報が得にくくなる。

【課題③】学校区分の中で、高等専修学校の存在を忘れられることがある。

→支援が必要な生徒に対して、継続的な支援と課題解決につながる地域連携の構築が必要に。

・生徒の支援状況に応じた、無理のない受け入れを。

→地元の特別支援学校との情報交換と連携の強化も必要。



2-4 連携委員会等実施履歴

○第1回 合同委員会

(実施委員会・地域ネットワークシステム開発分科会・企業ネットワークシステム開発分科会・職業実践モデル開発分科会)

日時：令和4年1月12日(水)：13：30～16：00

場所：全体会 豊岡市民プラザ市民活動室D・オンライン

分科会 豊岡市民プラザ市民活動室A/D・オンライン

○第2回 合同委員会

(実施委員会・地域ネットワークシステム開発分科会・企業ネットワークシステム開発分科会・職業実践モデル開発分科会)

日時：令和4年2月2日(水)：13：30～14：30

場所：豊岡市民プラザ市民活動室A/B・オンライン

○第3回 合同委員会

(実施委員会・地域ネットワークシステム開発分科会・企業ネットワークシステム開発分科会・職業実践モデル開発分科会)

日時：令和4年2月24日(木)：13：30～15：00

場所：全体会 豊岡市民プラザ市民活動室D・オンライン

分科会 豊岡市民プラザ市民活動室C/D・オンライン

○合同成果報告会

日時：令和4年2月14日(月)：15：00～17：00

場所：アルカディア市ヶ谷・オンライン ※オンラインによる参加。澤村校長が実施内容を報告。

第3章 高等専修学校の認知度に関するアンケート調査

3-1 全国的にも実施が進む高等専修学校認知度アンケート

「専修学校による地域産業中核的人材養成事業（学びのセーフティネット機能の充実強化）」の調査研究分野（幹事校：大岡学園高等専修学校）に設置されている地域振興分科会内の地域連携委員会は、全国12の地域における『チーム高等専修学校』の現状を知るための重要な委員会となっている。近年この委員会の中で、地域における高等専修学校の認知度を把握するためのアンケート調査が盛んにおこなわれている。この調査の影響で、広く高等専修学校の魅力が関係機関と共有できたため、新たな進路先として『高等専修学校』という選択肢が広がった地域もある。

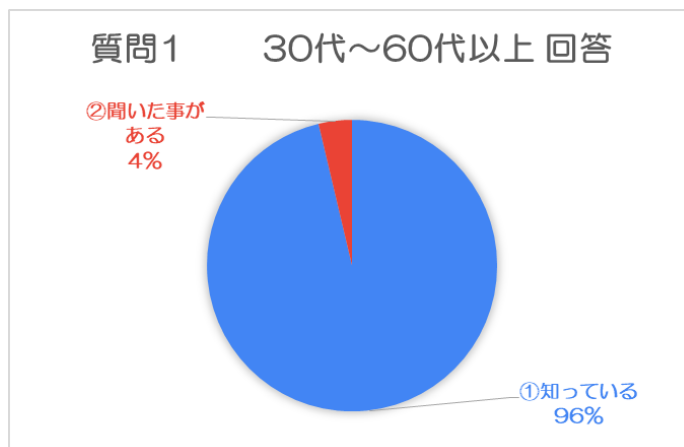
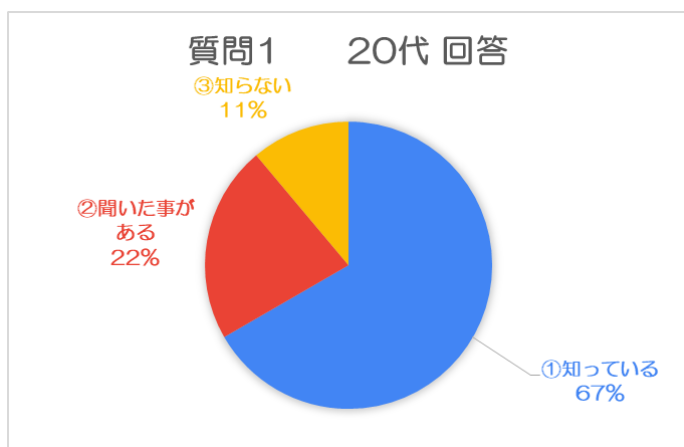
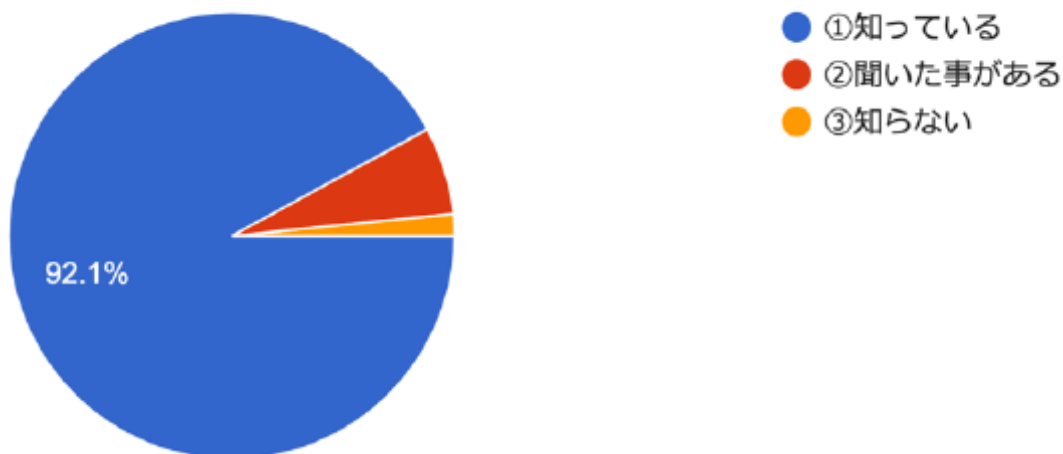
本校においても高等専修学校と外部関係機関とのネットワーク化推進の一つとして、地元における高等専修学校の認知度を調査した。今年度は豊岡市内の中学校教員を対象としたアンケートを実施。本地域での同様な調査は過去に無く、地域で高等専修学校をどのように認知されているかを客観的に把握することで、中学校をはじめ、市の教育委員会、各関係機関等との新たな連携体制構築への足掛かりとしたい。

3-2 アンケート調査結果

質問項目は全9問。項目によっては年代別の認知度の違いも比較できるようにした。集計結果を以下にまとめた。

質問1 高等専修学校について、ご存知ですか？

63 件の回答



質問2 どのような経緯で高等専修学校を知りましたか？ 簡単にお書き下さい。

61 件の回答

進路指導で / 昔から知っている / 進路学習を通して / 進路指導をする中で知った / 高校説明会 / 進路指導をする中で知りました / かつて勤務していた / 生徒の高校進学時、進路選択の1つとして知りました / 進路指導に係る業務の中で知りました / 中学校の教師だから / 進路指導の際 / 中学校での高校説明会で / 進路を決める際 / 地域の学校であり、常に身近に感じているから。 / 教員として働いたとき、近くに大岡学園高等専修学校があって知った。 / 仕事の都合上 / 仕事 / 家族が勤務した / 中学校教諭として進路指導を経験して知った / 進路先の一つとして / 生徒の進学先として / 昔から知っている / 進路指導と体験入学 / 学校に届く資料を見て / 進学指導の中で / 進路指導 / 進路指導で、知りました。 / 仕事上 / 進路指導の中で知りました / パンフレットで知った。 / 自分の子供の進路選択にあたって / 進路学習にて / 中学時代に進路学習で学んだ。 / 中学校教諭に勤務をして知ることが出来た / 地元によくあったから / 生徒の進学 / 近隣にあるから / 豊岡の高校を調べて知りました / 説明会(中学校、高等専修学校) / 資料を見たり、説明会に出たりした / 進路についての会議等で知りました / 教育職についているので、生徒の進路選択のために情報を得た。 / 勤務の関係で。 / 進路学習の準備等 / 地域に学校があるから / 近隣に高等専修学校があるため。 / 中学生への進路指導をするため / 進路指導の時 / 近くにあるので / 進路指導の関係で / 地元の学校である。 / 高校調べをする中で中学生の進路の一つであることを知った。 / 入試の進路指導の過程で / 学校の進路学習で。 / 過去の進路指導で知った。 / 進路指導をしていく中で / 人生の先輩から聞いた

質問3 高等専修学校についてどのようなイメージをお持ちですか？

59 件の回答

質問3：高等専修学校のイメージ



- ・学び直しが出来、生徒一人ひとりに寄り添う学校
- ・生徒一人一人がのびのびと生活している
- ・多様な背景を持った生徒が入学する学校
- ・さまざまな授業をしている印象
- ・社会に出て即役に立つ資格や意識を身に付けやすい
- ・多様な背景を持った生徒が入学する学校
- ・個別指導性が高等学校より高い
- ・就職に向けて手厚く対応していただける



- ・中学校卒業後の進路選択肢の1つ
- ・通信制高校と連携しており、高卒の資格を取る手段がある

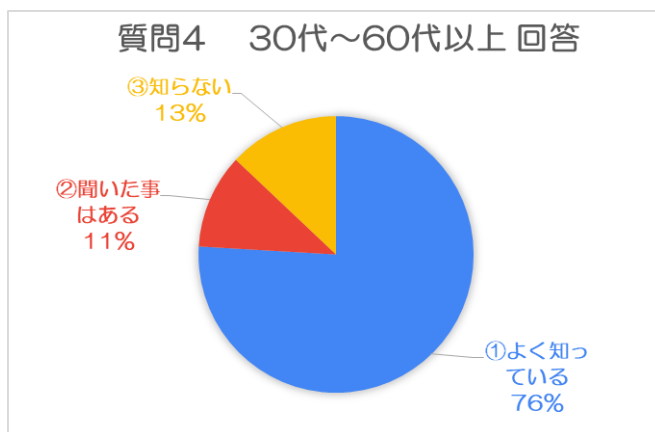
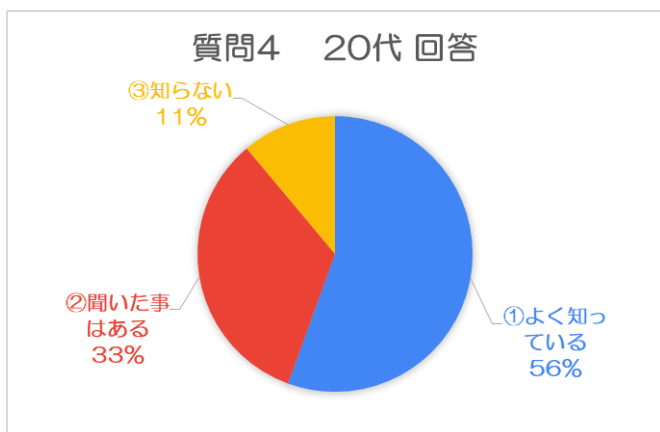
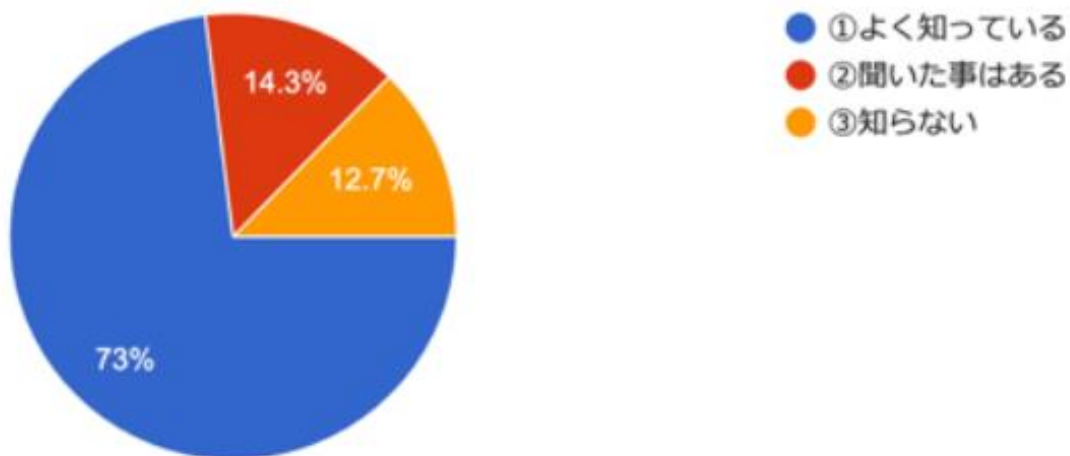


- ・専門的な技能を身につけられる学校だが、それだけではあまりニーズがない。



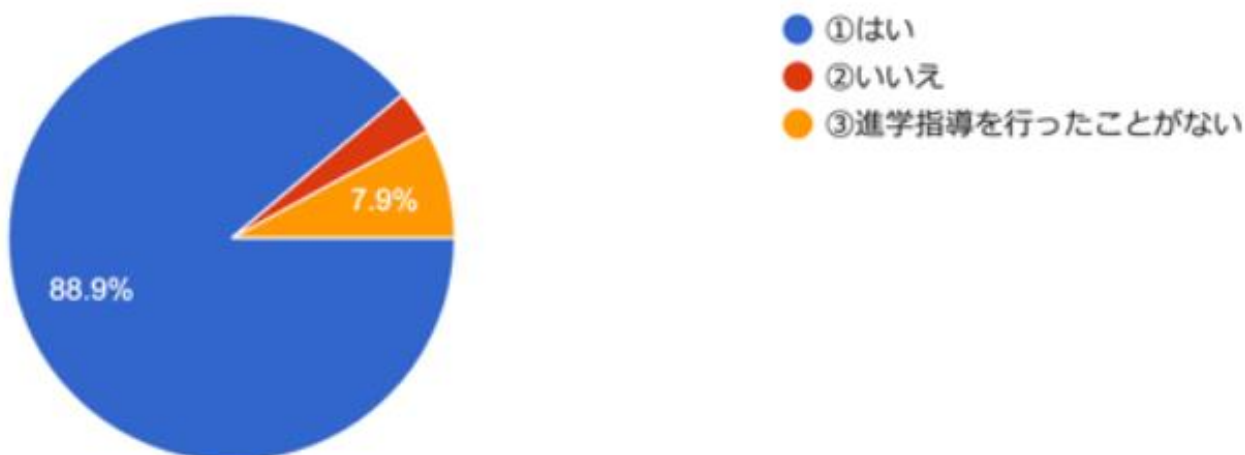
質問 4 支援を要する生徒（不登校・学習不安・コミュニケーション不安等）や福祉手帳（療育手帳・精神手帳等）を持っている生徒を受け入れている高等専修学校があることをご存知ですか？

63 件の回答



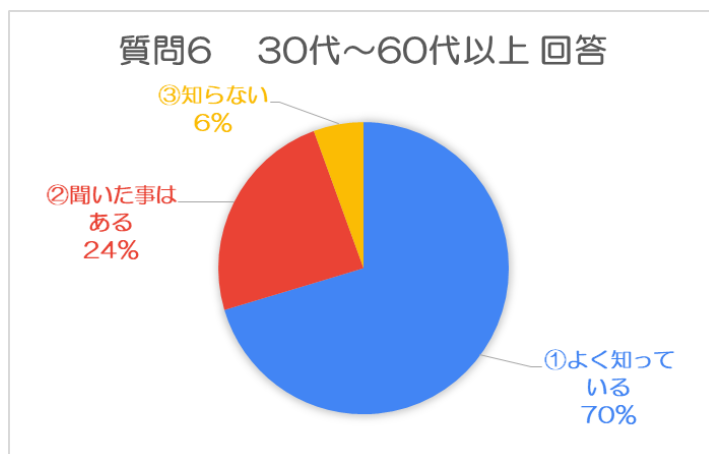
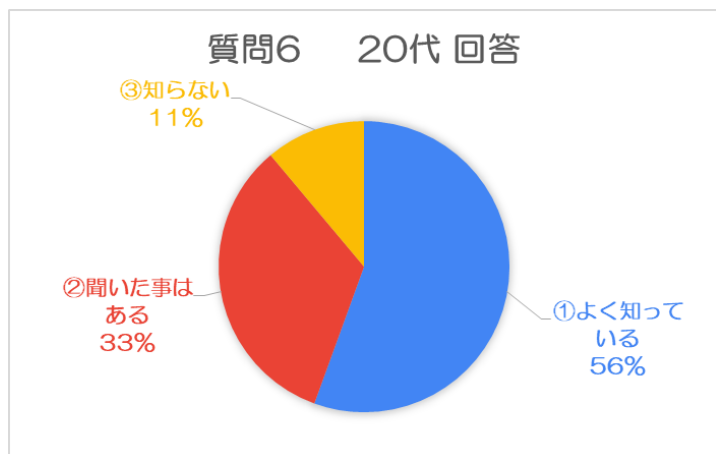
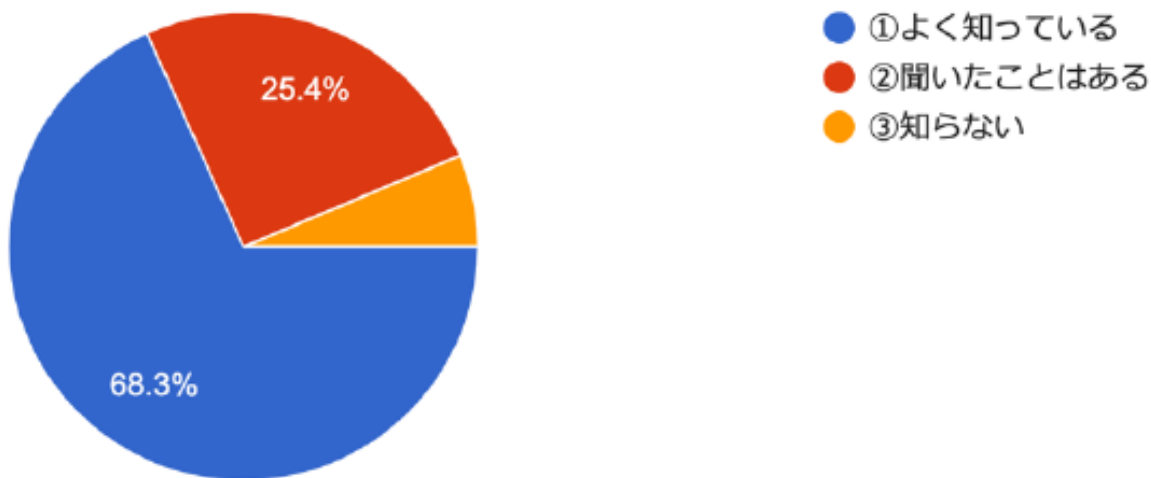
質問 5 中学校卒業後の進学先の一つとして、生徒・保護者に高等専修学校を紹介したことはありますか？

63 件の回答



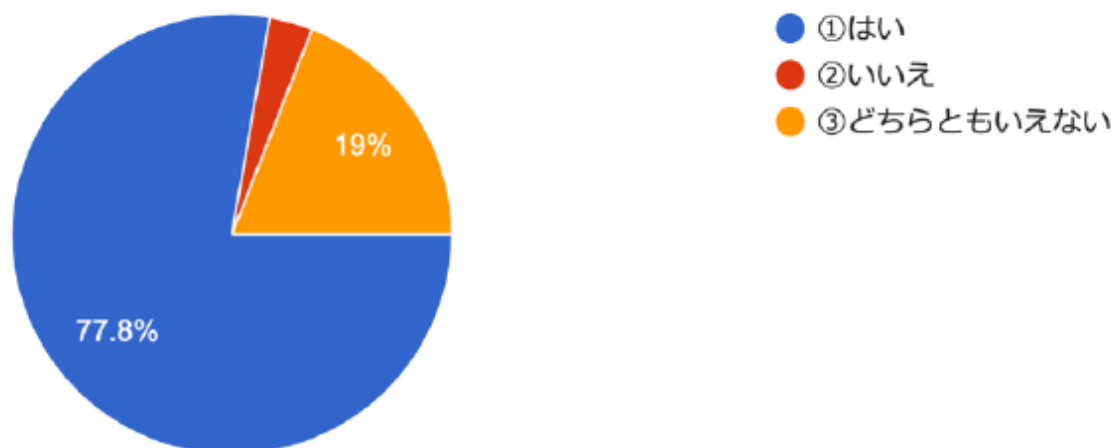
質問6 高等専修学校は「大学や短大に進学でき、就職も高校と同様の扱いで高等学校等就学支援金の対象校である」ということをご存じですか。

63 件の回答



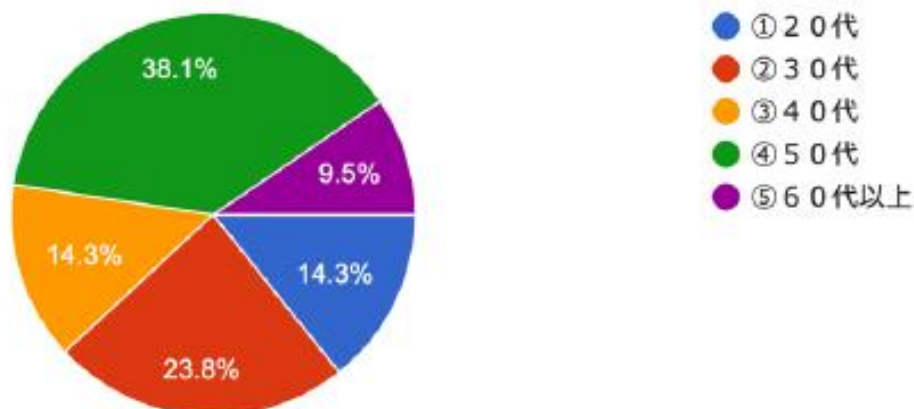
質問7 機会があれば、高等専修学校の情報をもっと知りたいと思っていますか。

63 件の回答



質問8 先生の年齢を教えてください。

63 件の回答



質問9 高等専修学校の取り組みに関してご意見がありましたらご自由にご記入ください。

15 件の回答

特にありません / いつもお世話になりありがとうございます / 能力、適正の異なる生徒がいますので、是非とも、希望した生徒を受け入れて欲しい。 / 高等専修学校のイメージを間違った保護者や一般の方が多いので、是非とも正しい情報を発信していきましょう。 / 中学生の進路の選択の一つとして、中学校の先生や小学校の先生は知っておくべきだと思う。 / 生徒の活動や進路について今以上にアピールしてもらいたい。 / いつも大変お世話になっています。今ある取組を今後も継続させていただきたいと願っています。 / 教諭の人数が少ないので、教諭が大変ではないか心配しています / 様々な活動を通し子供たちに接していただき感謝しております / 入学後も丁寧な指導をしていただいております。多様化する生徒・保護者の希望に沿っていただける学校であると思います。今後ともよろしく願います。 / 特になし / 特にありません。 / 最近はニーズが高まっているように感じる / 支援が必要な生徒へ、どのような支援をされているのかを知りたいです。

質問9：高等専修学校の取り組みに関してご意見



高等専修学校のイメージを、間違った保護者や一般の方が多いので、是非とも正しい情報を発信していきましょう。

生徒の活動や進路について今以上にアピールしてもらいたい。

最近はニーズが高まっているように感じる。

中学生の進路の選択の一つとして、中学校の先生や小学校の先生は知っておくべきだと思う。

能力・適正の異なる生徒がいますので、是非とも、希望した生徒を受け入れて欲しい。

支援が必要な生徒へ、どのような支援をされているのかを知りたい。

3-3 アンケート調査結果

但馬地域では同様な調査がこれまでなく、客観的な認知の様子が今回初めて明らかになったことは、何よりもまず大きな成果であった。その中でより明確になったのは、本地域では高等専修学校の認知度は高いという事である（質問 1）。しかし、同地域に高等専修学校は本校しかなく、認知度が高いのは当然であるかもしれない。また『高等専修学校』としての認知というよりも、古くから地元にある学校である『大岡学園』が高等専修学校であったという認知の方が、あるいは強いかもしれない。何より、本校の取り組みや生徒への対応方法などに関して、本アンケートによってある程度ご理解いただいているという事が明確になったことは、大きな成果である。

その認知度に関して年齢別の様子を見てみると、進路指導をあまり経験していない 20 代の若い先生方は低いという傾向が見られた（質問 1・4・6）。質問 2 の結果にあるように、高等専修学校を知るきっかけとなるのは、進路指導上の先輩先生からのアドバイスであるのがわかる。若い世代への高等専修学校という校種のさらなる理解も、地域に限らず全国的にも今後の課題となる。

第4章 職業実践モデル『はたらこう検定（仮）』の開発

4-1 今年度開発の各職業コンテンツについて

高等専修学校版職業実践モデルの開発の一つとして、今年度取り組みを行ったのが、就業に直結した実践的なインターンシップなどを取り入れた職業実践モデル『はたらこう検定（仮）』の開発である。このモデルは、楽しみながら多様な職業ニーズに対する基本姿勢が徹底的に学べる新しい就業支援ツールとして位置付けられ、職業教育を切り口とし、STEAM 教育のノウハウを取り入れた教育モデルである。

STEAM 教育とは、「STEM（Science, Technology, Engineering, Mathematics）に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲で A を定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習」※1であり、文部科学省も推進している新たな教育手法である。先にも記した通り、本事業では、高等専修学校の役割の一つである『職業教育』を STEAM 教育の視点で再構成し、「楽しみながら仕事内容を知る」という点に注意しながら、教科・科目の学びを社会で使える様に意識付けを行うこととした。

普段授業で活用できるのはもちろん、オンラインでどこでも生徒が興味を持った職業に関して情報が得られるように各職業をオンラインコンテンツ化し、職業観を養成するツールの一つとしての活用を一般化する。

※1：文部科学省 HP「STEAM 教育等の各教科等横断的な学習の推進」より引用

【STEAM教育項目対応マップ】

例：農業・福祉 → 昨年度まで開発の農福連携実習をスキームアップ

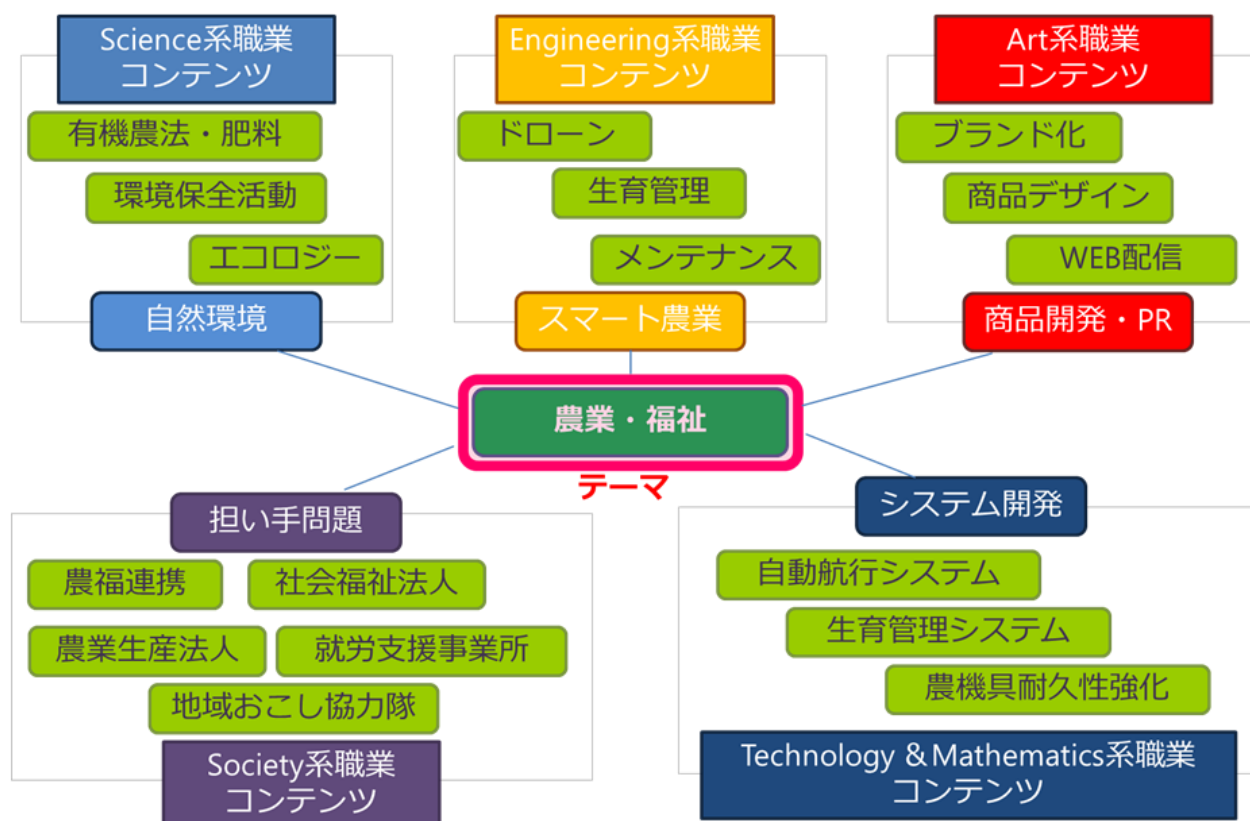


図 1：職業教育と STEAM の連携の一例

4-2 新しい就業支援ツール用開発教材の内容について

今年度は、農業分野と製造業分野について、職業コンテンツの一部を制作。製造業については、豊岡市の地場産業である鞆製造について取り上げた。

職業コンテンツの概要は、以下の図の通りである。今年度はこの内、職業紹介動画としてピックアップした地元企業の代表へのインタビュー等を収録したものを制作した。さらに、その職業に関連したSTEAM教育の視点による独自のワークシートを作成し、実証講座で実際に活用した。

【『はたらこう検定（仮）』受験まで】

多様な職業ニーズに対する基本姿勢が徹底的に学べる新しい就業支援ツール

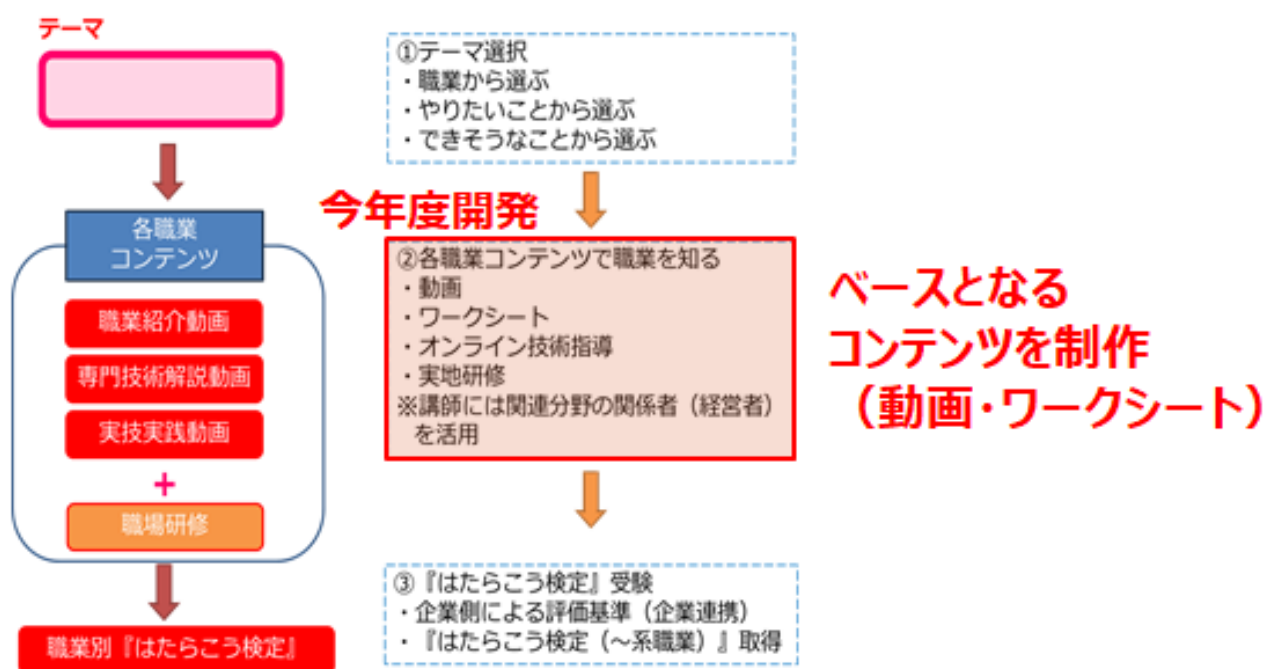


図2：新しい就業支援ツールのイメージ

職業教育を行う上で、まずは豊岡市にはどのような職業があり、どの様に働いているのかを知ってもらうことを目的とした。その上でそれぞれの職業にはどのようなスキルが必要なのか、具体的にはインターンで身につくものであったとしても事前に知っておけるようにした。ただしそもそも「働くとはどういうことか」

「職業とは何か」

が漠然としたままでは正しく理解できない可能性があると考え、前段として

「職業細分化の歴史」

「地域独特の職業、共通の職業」

を盛り込んだ。

その上で、豊岡市にはどのような職業・企業が存在し、幾つかの企業を取り上げながら、企業で求められるスキルと、STEAMを基準に考えた学習単元内容とのリンクをベースとして教材を開発した。完成したのは次の表の通りである。

種別	対象	タイトル	備考
動画	共通	仕事って？	
		豊岡の産業	
	農業	農業×学校の授業 ドローン編	
		インタビュー	株式会社@きなし 根岸様
	製造業	製造業×学校の授業 カバン編	
		インタビュー	有限会社アイズ 吉田様
ワークシート	共通	基本：仕事と職業	歴史・地理
	農業	農業：ドローン	Mathematics（数学）
	製造業	製造業：カバン	Arts（芸術）
指導案	共通	仕事と職業・豊岡にある仕事	
	農業	農業の現状とドローン	
	製造業	カバン業の現状とデザイン	

表 1：コンテンツ種別一覧

●動画

授業内で利用することを前提に、1本あたりは5分未満とした。なおインタビューは「1日の仕事の流れ」「この仕事をはじめたきっかけ」「仕事でしんどいこと、楽しいこと」「今後どうしていきたいか」を質問してそれに答えてもらう形式とし、全体で5分程度の尺の動画としている。

本来であれば対面授業の際にゲスト講師として授業を行ってもらい、生徒からの質問も受けてもらえるようにするべきだが、「いつでもどこでも学べる」という観点から、オンラインでの視聴が可能なように動画化した。

●ワークシート

生徒の学習を手助けするためのものとして、手順に沿って学習を進めることで理解を得られるように工夫している。

基本的には1時間に1枚（または1セット）を用意する。課題をクリアしていきながら知識と身につけ、同時にどういう所に注意が必要なのか、また実践的な技能として要求されるものを提示することとした。

はたらこう検定ワークシート

基本：仕事と職業

年 組 番 氏名

1.仕事について持っているイメージを書いてみましょう。

2.昔はあったが、今はなくなってしまった職業を挙げてみましょう。また何故無くなったのかについても考えてみましょう。

なくなった職業	その理由
1	
2	
3	

2-2.他の人の考えた職業で気になったものを書きましょう。

なくなった職業	その理由
1	
2	

3. 豊岡市のエリアでどのような職業があるのかを挙げてみましょう。

対象エリア

職業	想像する仕事の内容
1	
2	
3	

4. 他のエリアの職業と比較して、自分たちの選んだエリアにもある職業、自分たちのエリア独特の職業について書き出してみましょう。

共通の職業

独特の職業

◎振り返り

今日の授業の中で、あなたが新たに気づいたこと、知ったことは何ですか。具体的に書きましょう。またもっと深く知るためには、どんな教科や科目が必要だと思いますか。

図3：ワークシート（基本：仕事と職業）※P17～P18

はたらこう検定 ワークシート
農業：ドローン

年 組 番 氏名

次の圃場にドローンを使って農業を散布します。それぞれの問いに答えましょう。

圃場 (面積1ha)

ドローンによる農業散布範囲

1m [4m]

1. 上の圃場を端から散布していきます。ドローンが一度に散布できるのは幅4mまでだとすると、飛行距離は何mになりますか？
2. 時間が余ったら、次の問いに答えましょう。
 バッテリー1つでは最大でも20a (100m×20m) 分しか飛行できません。バッテリーはいくつ必要ですか？

図4：ワークシート（農業：ドローン）

はたらこう検定 **答え合わせ** 社会スタジアム
次世代都市

■ 飛行距離の計算

- 縦 → $99\text{m} \times 25\text{列} = 2475\text{m}$
- 横 → $4\text{m} \times 24\text{回} = 96\text{m}$
- 合計 → $2475\text{m} + 96\text{m} = 2571\text{m}$

ドローンによる農業散布範囲

1m [4m]

図5：ワークシート（農業：ドローン） 答え合わせ用スライド

はたらこう検定ワークシート
製造業：カバン

年 組 番 氏名

同じ型紙でカバンを作る場合も、素材やデザインによってまったく見た目や機能の異なるカバンにすることができます。次のカバンをどのようなデザインにするか考えて、色塗りしてみましょう。

●コンセプト

●想定される使う人（ターゲット）

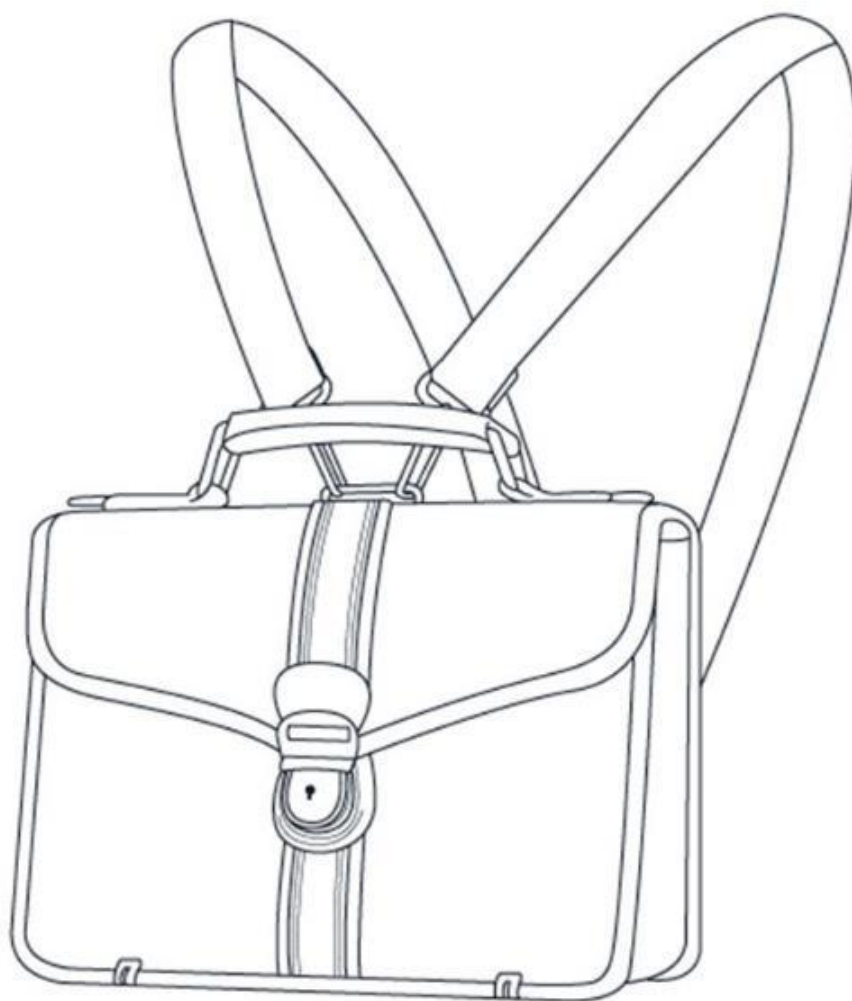


図6：ワークシート（製造業：カバン）

ワークシートの利用方法としては、原則はそのまま生徒に印刷・配布して授業を進める。もちろん教員が工夫して内容を変更しても良い。そのため、PDF 以外にオリジナルは PowerPoint にて作成し、編集が容易なようにしてある。

●指導案

指導案はワークシートと一対になるよう制作している。授業の流れや評価ポイント、評価基準なども考慮した上でワークシートを作成しているためである。従って、ワークシートを改変する場合には指導案も改変することを薦める。

6. 本時案（第3小単元）

(1) 本時の目標

農業に焦点を当て、その問題点や解決すべき課題を知る。同時に導入可能な新しい技術や稼ぎ方を公民的観点、技術的観点から学ぶ。

またドローンを例に、肥料や農薬を散布する場合の飛行計画を数学的な視点から考える。

(2) 本時に関連する教科・科目・単元

- 地理総合 「持続可能な地域づくりと私たち」、
- 地理探求 「現代社会の系統地理的考察」、
- 公共 「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」

(3) 展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 導入 (3分)	・本単元での学習内容を説明 「農業」について考える旨を提示する。	
2 動画の視聴 (5分)	・動画の再生 (はたらこう検定農業-1 (インタビュー) .mp4)	
3 意見のまとめ (5分)	・農業について技術的な面からの改善方法について考えるよう促す ・各生徒の進捗確認 ・行き詰まっている生徒の支援	a) 農業についての改善点について技術的な面から考えられているか
4 発表 (10分)	・グループ毎に調べた内容を発表する	
5 動画の視聴 (3分)	・動画の再生 (はたらこう検定農業-2.mp4)	
6 実習 (10分)	・図形に補助線などを引きながら計算するよう促す ・各生徒の進捗確認 ・行き詰まっている生徒の支援	b) 数学の技能を使いながら、論理的に考えられているか
7 答え合わせ (5分)	・スライドを使いながら答え合わせをする ・何人かの生徒を当てて答えを発表させても良い	
8 まとめ (4分)	・農業についての問題点や解決方法の糸口などをまとめる ・次回の内容について説明を行う	

図7：指導案の例（一部抜粋）

4-3 開発コンテンツを用いた実証講座について

これらの教材を利用し、2回に分けて実証授業を行った。対象は大岡学園高等専修学校のジョブトレーニングコースに在籍する2年生12人である。

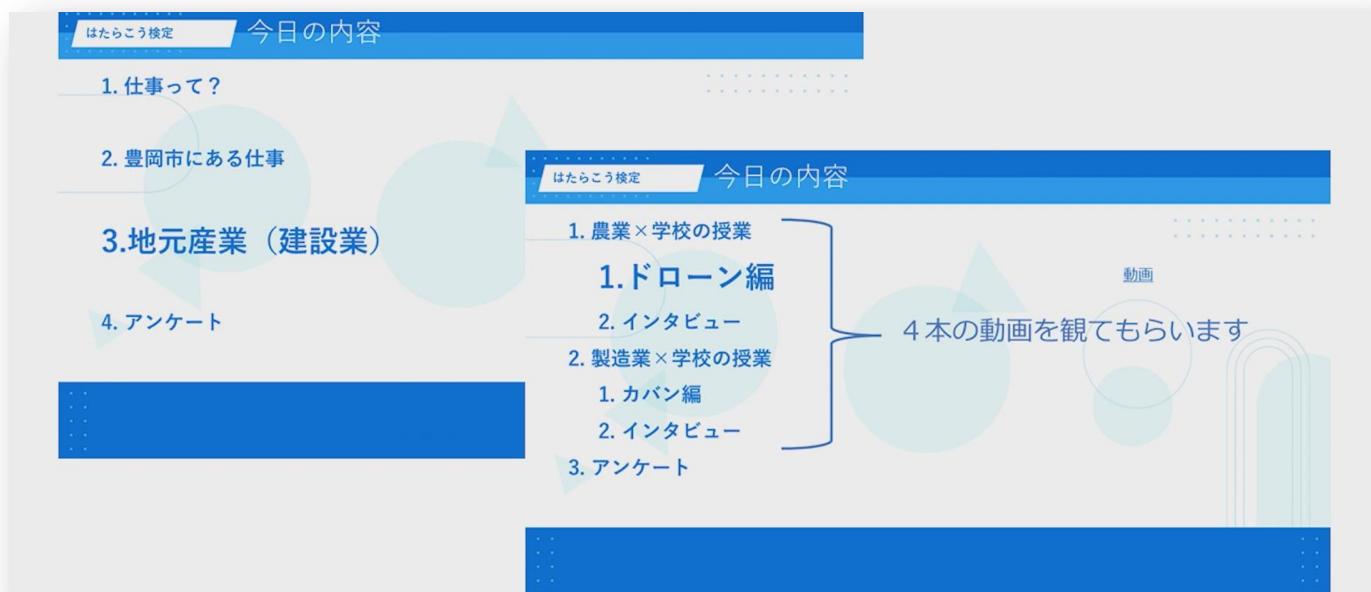


図8：授業当日に表示したパワーポイント（左：1回目、右：2回目）

●第1回目：2021年11月24日（水）2限目、3限目

第1回目の実証授業は2限と3限の合計2時間を利用して行った。2限は「仕事と職業・豊岡にある仕事」とし、動画「仕事って?」「豊岡の産業」を視聴してもらい、ワークシートに自分の考えをまとめていきながら、仕事について知ってもらった内容とした。

また3限は経済産業省の「STEAM Library」にて公開されている

『「杜のスタジアム」にみる次世代都市づくり』

のコマ⑤「建築技術と産業」を使い、地域に共通して存在する業種である「建設業」について考えた。内容としては

「新しい技術を導入することによって、どのように建設業は変えられるのか」という観点で4つのグループでそれぞれ議論しながら考えをまとめてもらった。

このコースはビジネス実技として「ドローン操縦訓練」なども行っているため、実際には測量をドローンによる撮影で行うなど、ドローンを活かした内容が中心となった。

また発達障害の生徒が入っているグループは議論がなかなか進まず、教員によるフォローを行いながらの議論となった。



図9：第1回目実証授業の様子

●第2回目：2021年12月15日（水）2限目、3限目

第2回目の実証授業も2限と3限の合計2時間を利用して行った。2限は農業、3限は製造業（カバン）についての講義を行った。

動画の視聴後、ワークシートにてSTEAMに関連する課題に取り組み、最後にインタビュー動画を視聴してもらった。



図 10：課題に取り組む生徒



どんな仕事も誰かの問題を解決する事



豊岡鞆という地域団体商標を取って

図 11：インタビュー動画（上：農業、下：製造業（カバン））

生徒からは動画の内容について「わかりやすい」という評価をもらった。一方ワークシートについてはドローンをテーマにした数学（実質は算数）の課題については「内容が難しかった」という評価が出た。しかし実際に必要な技能であるということは理解してもらえた。

またカバンのデザインについての課題は、すべての生徒がなんらかのテーマを持ったデザインを

行う事ができた。

実際に実証講座を実施し、生徒の様子を見る中で課題として感じたことは、ワークシートの管理である。授業の資料として紙で配られるため、管理が苦手な生徒にとっては次の授業の時に無くしてしまったり、用意することができなかつたり、保管が悪く破損してしまつたりがあり、提出ができないといった事例があつた。

本コンテンツを利用した授業を実施する際は、配られたワークシートをまとめられたり（貼り付けができるなど）、今後実際に受け入れ企業などで実践的な実習を行った際の実習記録（ドローン飛行記録を含む）をつけたりと、一つにまとめられるものがあると、何らかの支援が必要な生徒にも持ち物等が明確になり、忘れ物や提出ミスなども軽減されることが考えられるため、来年度以降活用できる実習ノート（STEAM 実習ノート）の制作も行った。



図 12：実習支援ツール『STEAM 実習ノート』

4-4 職業実践モデルの今後

今年度の開発と実証授業の結果を受けての改良が必要だと考える。具体的には①実際の作業の様子を加える、②企業代表者へのインタビュー対象を増やす、である。当然これらには地元企業からの要望を反映する必要がある。

同時に生徒の自学自習にも使えるよう、動画をオンライン視聴ができるようにする必要がある。もちろん学習のガイドとしてワークシートが存在しているわけだから、ワークシートは Web 画面上で入力可能なようにする必要がある。

さらに「はたらこう検定（仮）」とあるように、最終的な目標は検定を行う事である。従って技能試験もオンライン受験できるようにする必要があると考えている。そのため企業から必要なスキルや技能についての聞き取りを行い、検定問題を制作する必要がある。



図 13：「はたらこう検定（仮）」のログイン画面

今回開発した各職業コンテンツは一部であり、今後開発していくモデルのベースとなる内容である。職業も農業と製造業の2分野のみとなっており、さらなる分野の増強も必要となってくる。この件に関しては、引き続き企業ネットワークシステム開発分科会・職業実践モデル開発分科会での検討と、関係企業への働きかけが重要であり、来年度へ向けての目標でもある。

実際の授業での活用について委員からは、「企業のニーズをつかんで、それに対してアプローチ

をかけて、生徒がそこへ勤めるなり体験なりすることが目的ではないのか、と思っていた。そういう時に、ビデオ（インタビューや仕事内容の紹介動画）を撮られ、その企業の代表が実際に来られてお話をされているというのは、すごく的を射た話で、これをパターン化すればいいと思う。」さらに「最初にビデオありきで、その後ご本人が登場して話をして、それに心を打たれた方がインターンで働きに行く。そういう仕組みを作るのが良いのではないか」というご意見もいただいた。

本物の方が来ていただいて話をしていただけると、間違いなく生徒にもインパクトがあり、それは高等専修学校だからこそできるカリキュラムの部分であると考えてるので、来年度以降の本コンテンツ開発のヒントにもしていきたい。

第5章 次年度以降の取り組みについて

本事業は、今年度か3か年の期間で実施される事業である。テーマとして上げている『高等専修学校版職業実践モデルの構築』は、専修学校の専門課程で認定制度のある『職業実践専門課程』の高等課程版を想定したもののモデルを開発したいという思いもある。

『職業実践専門課程』は「専門課程のうち、企業その他関係機関との連携の下、当該課程の目的に応じた分野における実務に関する知識、技術及び技能を教授し、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的とするものを「職業実践専門課程」として文部科学大臣が認定することにより、専門課程における実践的な職業教育の水準の維持向上を図り、もって生涯学習の振興に資すること。」と『「職業実践専門課程」の創設について（平成25年7月12日 専修学校の質保証・向上に関する調査研究協力者会議報告）-1-』にあるように、関係機関との連携、特に専門的職業実践カリキュラム開発に関しては、各分野の企業との密な連携などが必要となってくる。その他、地域社会への貢献や連携、学校評価の公表など、開かれた教育機関としての資質も問われる。

地域社会にとってどのような役割を本校が、高等専修学校が担うことができるかという事を、この3か年を通じて見極めていきたい。

次年度へ向けての取り組みのポイントは、以下の通りである。

次年度へ向けて ～今後の取り組みのポイント～

- ①地元での社会的認知度の向上に向けての取り組み
 - ②真の地域連携（チーム高等専修学校）に向けての取り組み
 - ③子育ての悩みや就職・進学等についての『困りごと』を、学年を問わず早い段階で相談できる身近な場所の創設（保護者対象）
 - ④企業とのコラボによる就労支援ツールの充実
- ➡地元企業とリンクした実践的職業コンテンツの充実と協力企業の増強

文部科学省委託事業
令和3年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
学びのセーフティネット機能の充実強化
高等専修学校と外部とのネットワーク化の推進

地方都市における地域ネットワークを活用した
高等専修学校版職業実践モデルの構築

事業実績報告書

学校法人大岡学園 大岡学園高等専修学校
令和4年2月

連絡先：〒668-0065 兵庫県豊岡市戸牧 500
学校法人大岡学園 大岡学園高等専修学校
TEL：0796-22-3786 FAX：0796-24-2282

●本書の内容を無断で転記、記載することは禁じます